

## 書塾の仲間たち

第 250 回

### むぎ進学教室（静岡県浜松市・湖西市）



#### ●書塾からひとこと●

むぎ進学教室は一九七七年に創塾し、「できない子はない、誰もが必ず伸びる」を指導方針として四六年間、地域に根を張った教育活動に従事してまいりました。書写書道教室は二〇一六年六月に開講し、現在は浜松市・湖西市に五教室を開設しています。「むぎ」という塾名には、子どもたちに「踏まれても踏まれても立ち上がり、逞しく真つすぐ育つ、むぎのように成長していくってほしい」という願いを込めています。

当教室では最初に鉛筆と筆の正しい持ち方、そして書く姿勢を指導します。美しい字は正しい姿勢と集中力から生まれます。読み、書き、そろばんの三点は学習の土台であると考えていることから、「美しく、正確に、速く書く力」を子どもたちにしっかり身につけてほしい、という思いで書写書道教室を運営しています。

本年度も展覧会や大会に多くの作品を出品することで、子どもたちの目標達成に向けての意欲ややり遂げる力を養っていきます。展覧会への出品などに積極的にチャレンジすることで、勝負強さと集中力が身に付くと思います。書写書道を通して子どもたちが逞しく育ち、将来、力強く社会に羽ばたいていくほしいと心から願っています。

むぎ書写書道生の目標の一つに「美しい字が書けること」を掲げています。美しい字が書けると書くこと自体が好きになります。「美しく、正確に、速く書く力」を育むための教室として、これからも子どもたちの成長の力となれるよう、尽力してまいります。

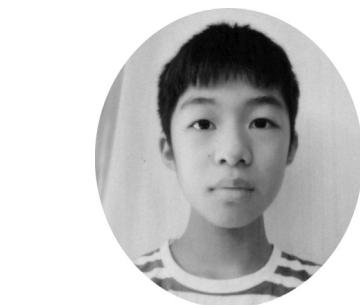
※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。  
むぎ進学教室 岡田 純彰

ぼくは二年生のときに書道を習い始めました。そのころぼくは習い事を始めたいと考えていたのですが、何を習いたいかを決めきれませんでした。なやむ中で、母に相談をしてみたところ、母から「書道を習ってみるのはどう?」と提案されました。そこからだんだん気持ちがまとまって、書道を習うことに決めました。

初めて書道教室に行つたとき、先生がとてもやさしく、そしてわかりやすく指導してくれたことを覚えています。習い始めて最初のころは字のまどりや形、とめ、はね、はらいがよく分からなかつたけれど、先生は全て一から教えてくれました。毎回そのことがうれしくて、お稽古をがんばりました。何回も何回も練習を重ねていくうちに、たくさんの賞をいただきができるようになりました。

ぼくが今までもらった中で一番うれしかった賞は、五年生のとき、「大地」という字を書いた際にもらつたものです。そのときぼくは、書道という美しい芸術に出会っていたのだと思つた。そのことに気づいてから、書道に向ける気持ちをより大切にし、お稽古にも真剣に取り組んでいます。

今のぼくの目標は「を目指せ一級」です。この目標を達成するために、先生の教えてくれることをよく聞き、上手い子の作品を見てたくさん学びたいと思います。自分の字の精度をもっと上げて書けるように、これからもがんばります。



書道という美しさ

東京都福生市立福生第一小学校六年

大高 球太郎

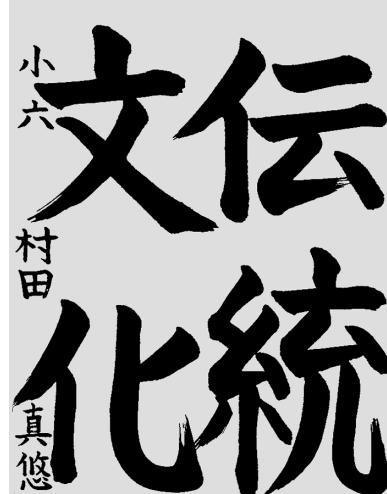
おおたか こたろう

## 私と書写書道 第250回

新たな目標に向かつて

東京都福生市立福生第六小学校六年

村田 真悠



私は「字が上手くなりたい」と思い、体験教室に参加したことがきっかけで、小学四年生の冬に書道を習い始めました。もともと、学校の習字の授業は好きでしたが、参加してみると思つた以上に楽しく、「また参加したい!」という気持ちになり、教室に通うことを決めました。

はじめは、字のバランスを取るのが難しくてお手本のような字が書けずに苦労しました。今は、字のバランスを考え、とめ、はね、はらいを意識することや、お手本をよく見て字の特徴を考えながら書くことで、少しずつお手本のような字を書けるようになつてきたと思ひます。

学校でも、友達に「上手だね」と言われることが増え、自分の字に自信を持つようになりました。また、いろいろな課題に取り組む中で、得意な字と苦手な字が分かるようになりました。得意な字はさらに伸ばせるよう、苦手な字は得意になるように、たくさん書いて練習を重ねていきました。

昨年の夏には、高円宮杯で日本武道館奨励賞を受賞して、初めて日本武道館での表彰式に参加しました。当日は正装をしていたのでとても緊張しましたが、他の賞を受賞する人を見て「もっと良い賞を取りたい」と感じました。

私は書道を通して集中力を習得しました。集中力は、学校のテストなどでも大切だと思うので、もっと集中力を高めて、きれいな字を書けるようになります。そして前より良い賞を取つて、また日本武道館での表彰式に参加したいです。